

災害からの再生、暮らしの根幹としての地域支援 ～真備町からの報告～

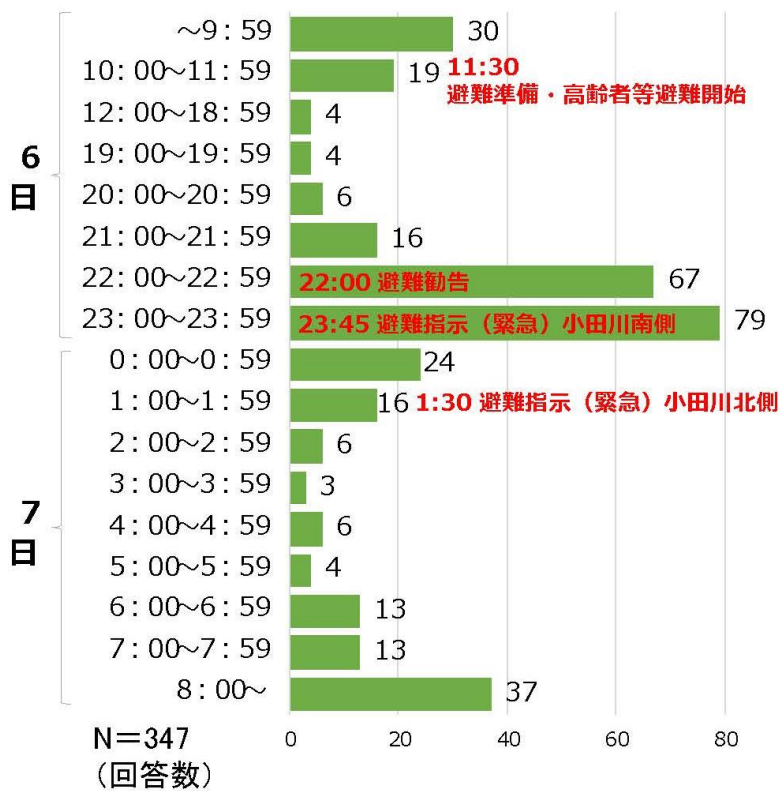


小規模多機能ホームぶどうの家真備（岡山県倉敷市）
津田由起子

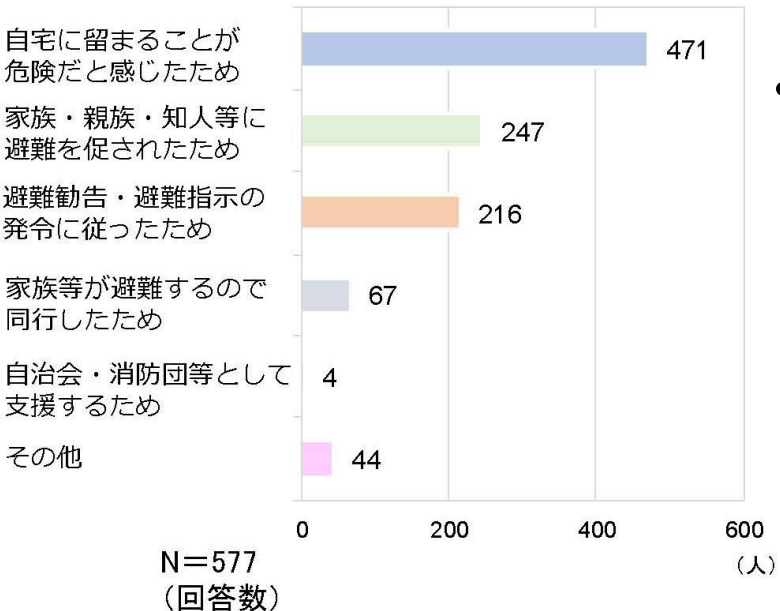
避難行動はなされていた

避難場所※に避難を開始した時刻

※学校等の公共施設（指定避難場所以外を含む）
ただし、親戚・知人宅や職場、神社・集会所・商業施設等に避難した世帯は除く。



避難した理由（複数回答）



・避難勧告・指示発令の段階で、全回答数（347）の内、225回答（64.8%）が避難開始している。

・課題は避難できない方

平成30年7月西日本豪雨災害の記憶



23人のご利用者の安否確認しつつ避難させて回った

避難所への不安や、生きる希望を持たず避難を渋る方々が多数。

最後の一人が、ご自宅で亡くなっておられた。

24時間365日生活をサポートしますと言っているが命を守ることができなかった。

忘れない後悔

被災直後7月から10月避難所

藁公民館分館

「福祉的避難所？」

ぶどうの家のご利用者さんと登録外の方と一緒に



泥まみれの私たちの為にブルーシートを敷いてくれた



訪問入浴車



歯科衛生士



夜は布団を敷いた

あえて段ボールベッドは断った



心と体のケア・情報共有

朝は布団をあげた



食事

訪問



できるだけ生活を変えない工夫



たくさんの方々に支えられ、
厳しい中でも楽しさのある日々

在宅を知っている強み



被災前も後も変わらず

できることは自分たちです



絵の中は、みんな笑顔

公民館にいと発信したので、ご利用者が他の避難所から集まって来た

ご利用者さんはどんどん元気になった



被災した倉庫をリフォーム



10月から2月仮設事業所



仮設事業所で年越し



「たくさんお世話になったから、恩返し」



後ろには支援物資



「キムチを作ろうや」

事業所
＋
コミュニティ
ルーム





避難機能付き共同住宅

サツキアパート
2000年6月完成

サツキPROJECT

救えなかった命・・・後悔

被害は高齢者に集中

- ・真備町の死者51名の内、88.2%にあたる45人が65才以上
- ・その内、自宅でお亡くなりになった方は44人（86.3%）



防災タワー

小規模多機能ホーム
ぶどうの家真備

要介護度及び身体障害の内訳(倉敷市)

年齢階層	県内全体	うち真備町
65歳未満	12人(19.7%)	6人(11.8%)
65～74歳	17人(27.9%)	15人(29.4%)
75歳以上	32人(52.4%)	30人(58.8%)

死亡場所	県内全体	うち真備町
自宅	44人(72.1%)	44人(86.3%)
その他	17人(27.9%)	7人(13.7%)

真備町の死者51人のうち、88.2%にあたる45人が65歳以上である。

要介護度	人数(割合)
なし	33(63.5%)
要支援1・2	5(9.6%)
要介護1	6(11.5%)
要介護2	2(3.9%)
要介護3	4(7.7%)
要介護4	1(1.9%)
要介護5	1(1.9%)
合計	52(100%)

身体障害度	人数(割合)
なし	40(76.9%)
4～6級	4(7.7%)
3級	2(3.8%)
2級	3(5.8%)
1級	3(5.8%)
合計	52(100%)



避難機能付き共同住宅（ソフト）

日頃から気にかかけあった暮らしの実現

おいでのサイン



内閣総理大臣賞表彰



心強い灯り



住民同士で生活を支える仕組み
助け隊・ありが隊

あなたの「困ったな」と、誰かの「ちょっと手伝うよ」をマッチングする有償ボランティアの仕組みです。▼ひとりの人が、「助け隊」になってサービスを行う時があれば、「ありが隊」になってサービスを利用することもあります。▼助け合う仕組みがあることで、一人でも多くの方が真価に導かれて来ることができたらいいと思います。



2022年1月1日サツキアパートにて



体操の会



パン焼き教室



既存ストック(被災したアパート)の再利用の利点

- 住まいに併設なので、いつでも24時間の避難機能を発揮できる。特別な準備も不要。
- どんな場所で誰がいるのかわかっているから、安心して避難できる。
- 日頃から通い慣れた場所だからこそ避難しようと思える。
- 次の避難について、ここで相談できるので、避難スイッチが入りやすい。
- 空振りに終わっても、いつもの「集い」と同じなので、負担感がない。
- 普段づかいの避難はハードルを下げる

- 500メートルごとに避難できる建物があれば、命は助かる！
- 被災地では、被災した建物の再利用を！
- 既存の建物を再活用することで素早い住まいの再建が可能になる
- 地域のコミュニティの復活も早まる。



「ちょっと困った」を
ちょっとづつ支えあう、得
意なこと誰かの役に立つ

誰もが気軽に立ち寄って、いつ
も何かがはじまる。
ちょっとの楽しみもちょっと不
安も共有できる。

興 51人（直接死）の犠牲を伴った西日本豪雨
災害からの復興。
誰もが尊厳をもった生活を取り戻すための
「住まい・生活」を再建。

支

伝

災害の教訓を目に見える
形で、住まい方で伝え、
次世代へつむいでいく。

いきる
つながる つたえる

つどう ひらく

共

サツキPROJECT

展

「水害に強いまち」のシンボルとし
て、避難機能付き共同住宅がサツキ
が花開くように全国に普及していく。

地域連携型マイタイムライン

マイ・タイムラインとは：

災害が起こりそうなとき、自分がいつ、なにをするか整理した行動計画



- 避難に手助けの必要な高齢者が、避難をためらい結果逃げ遅れた。
- 福祉の人が関わっているから手を出したら悪いと近所の方が遠慮した。
- 介護事業所は日頃から、地域の方とご利用者の関係性が分かっていたいなかった。
- 遠方に暮らす息子や娘は、本人に電話するしかできなかった

マイ・タイムライン（個別避難計画）				作成日： 年 月 日
ふりがな 本人(氏名)：	家族	近所	組織 (会社・施設・ケアマネ等)	
住所：	ふりがな 氏名： 関係： (- -)	ふりがな 氏名： 関係： (- -)	名称：	
携帯：(- -)	ふりがな 氏名： 関係： (- -)	ふりがな 氏名： 関係： (- -)	担当者：	
いつもいる場所(昼 夜)	ふりがな 氏名： 関係： (- -)	ふりがな 氏名： 関係： (- -)		
避難リュックの置き場所()	ふりがな 氏名： 関係： (- -)	ふりがな 氏名： 関係： (- -)		
<input type="checkbox"/> 一人暮らし <input type="checkbox"/> 高齢者世帯 <input type="checkbox"/> 障害 <input type="checkbox"/> 小学生以下 <input type="checkbox"/> その他()	ふりがな 氏名： 関係： (- -)	ふりがな 氏名： 関係： (- -)		
自宅の危険性 <input type="checkbox"/> 水浸し <input type="checkbox"/> 土砂 <input type="checkbox"/> 地震	ふりがな 氏名： 関係： (- -)	ふりがな 氏名： 関係： (- -)		
5 1 3 日前	<input type="checkbox"/> テレビなどで大雨の情報を知る <input type="checkbox"/> 薬を余分にもらっておく <input type="checkbox"/> 持ち物の確認 <input type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 大雨情報を伝える <input type="checkbox"/> 薬を確認する <input type="checkbox"/> 持ち物の確認 <input type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 大雨情報を伝える <input type="checkbox"/> 薬の準備の声掛け <input type="checkbox"/> 持ち物準備の声掛け <input type="checkbox"/> 買い出し <input type="checkbox"/> 避難先の確認・連絡	<input type="checkbox"/> 避難可能場所の把握・共有 (L3以前) (L3以降)
2 日前	<input type="checkbox"/> いつ避難するか相談 相談する人()	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認)	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認)	<input type="checkbox"/> 避難準備の声掛け(再確認)
1 日前	<input type="checkbox"/> 家族・近所と避難準備状況を確認 <input type="checkbox"/> 避難先を決める 検 捕 []	<input type="checkbox"/> 準備状況の確認 <input type="checkbox"/> 要支援者の避難先を決める <input type="checkbox"/> 自らの避難準備	<input type="checkbox"/> 準備状況の確認 <input type="checkbox"/> 要支援者の避難先を決める <input type="checkbox"/> 自らの避難準備	<input type="checkbox"/> ()対策本部立ち上げ <input type="checkbox"/> 避難所準備
避難スイッチ (L3 もしくは)				
半 日前	<input type="checkbox"/> 避難の希望を介助者に伝える <input type="checkbox"/> 貴重品の準備	<input type="checkbox"/> 避難の声掛け <input type="checkbox"/> 貴重品の準備	<input type="checkbox"/> 避難の声掛け	<input type="checkbox"/> 避難所開設

- この様式を埋めるのは大変だと思っていたけど、近所さんや福祉の人とつながって、お互いに電話をかけるようになるだけでも、十分効果があるとわかった。
- 民生委員だけがやらないといけないのか、民生委員の負担感が強まるけど、作成のたぐいの話し合いをすることで、私だけでなく皆で取り組み、負担が減ることが分かった。
- 離れて暮らしているのでも、両親のことが心配だけど、こんなにも近所の方々に気配りかかってもらえることが分かって、安心して近所の方々に助けを求めようと思った。
- 前は、逃げないと思ったけど、次は私もみんなと一緒に逃げていいね。

本人・家族・事業者・地域が連携する必要がある

国土交通省小田川河川事務所が汲み取ってくれた

開始 (居室から玄関まで 分)			
	<input type="checkbox"/> 避難完了を共有(災害用伝言ダイヤル171等)	<input type="checkbox"/> 避難完了を共有(災害用伝言ダイヤル171等)	
L4 避難勧告・避難指示			
L5 避難発生			

※ □にチェックがつかない場合は、誰が実施するのか決めておくこと

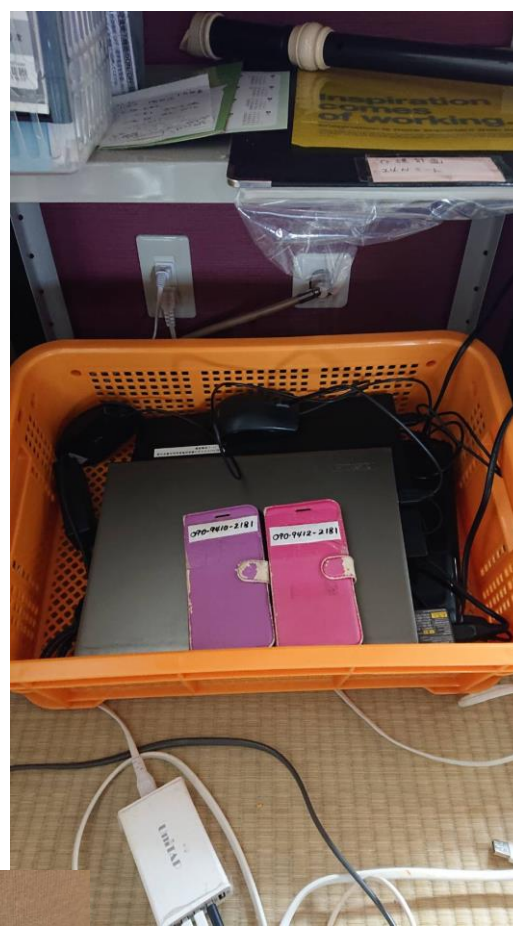
始まっている ヘルプカードとの連動

住民と福祉事業所の合同避難訓練

事業所内

避難グッズの準備

パソコン等一括収納



地域の方へ依頼

車の避難場所

介護の手助け

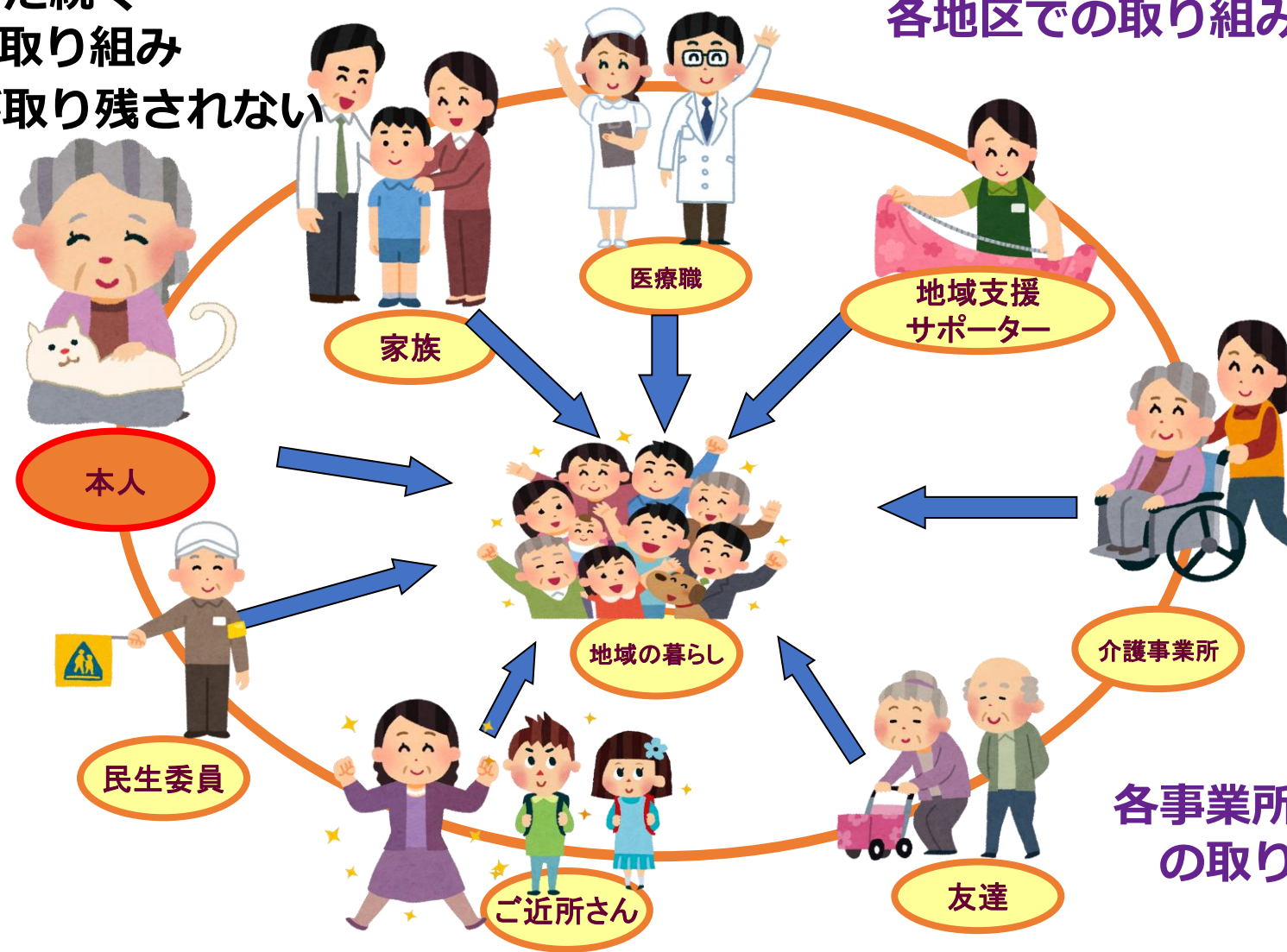
畑の野菜ちょうだい



すべてのひとが どんなときでも「地域」の 構成員

まだまだ続く
防災の取り組み
誰もが取り残されない

各地区での取り組み



各事業所や団体
の取り組み

地域の暮らしをみんなでつくる。助けてと言い合える関係を作る。
ゆっくりでもいい一歩一歩、つながっていく。

